

遺伝子医学 MOOK 24号 最新生理活性脂質研究 実験手法, 基礎的知識とその応用

横溝岳彦 監修・
青木淳賢, 杉本幸彦, 村上 誠 編
メディカルドゥ/B5・312頁・5,600円

生理活性脂質が炎症や痛みの発現に重要であることは古くから知られていたが, 抗炎症にかかわる生理活性脂質も多数見いだされるようになり, 炎症の発症・収束の双方を制御していることが分かってきた。炎症に起因・関連する様々な病態における生理活性脂質の役割・作用メカニズムの解明

も急速に進んでいる。最近では, 神経変性疾患や毛髪疾患への関与も示唆されている。

創薬を目指す薬学研究者にとって, 今や生理活性脂質は目が離せない分野の1つであろう。(生理活性)脂質は長らく, その物質的な取り扱いづらさや研究手法の制限から研究対象として困難な面があったが, 最近の質量分析計を用いた爆発的な研究の進展は, まさに驚異的だ。脂質の検出感度が1,000倍以上に上がったことも1つのブレークスルーになっているようだ。生理活性脂質研究の新しい時代の幕開けである。

本書は, 国内で生理活性脂質研究を牽引

している研究者が総出で執筆している大変貴重なMOOKとなっている。第1章の技術編では, 多くのページを割いて脂質解析手法の革新の概要が紹介され, 第2章のモデル動物編では個体レベルでの機能解析に絶大な威力を発揮しているモデル動物を用いた研究例が挙げられている。第3章の基礎編では最新の研究成果のエッセンスを味わうことができ, 第4章の臨床編では創薬の種がそこかしこにあるのを実感することだろう。

最新の生理活性脂質研究の概要を知ることについてつけの書である。

深澤征義 Masayoshi FUKASAWA